広報

しらさわ
SHIRASAWA

2006
平成18年
最終号

Vol.535

白沢村政施行51年に幕

閉村にあたって

白沢村長　岡部 善宜

白沢村は、昭和30年４月30日に和木沢村と白岩村の２村が合併し、以来幾多の星霜を経て51年の歳月が流れ、今、新たな時代に対応する地方自治の方向として新生「本宮市」の誕生により白沢村の歴史に幕を閉じることとなりました。

昭和30年の合併当時の人口は11,598人でしたが、出稼ぎや若者の都市流出等による人口減から昭和55年には8,554人まで減少し、人口減少と財政力指数の低下により同年「過疎地域」の指定を受けました。

また、一時期は「住みやすさワーストワン」という不名誉な報道がありましたが、議会議員の皆様方の真摯（しんし）な取り組みをはじめ、村民一丸となった地域振興へ向けての情熱が実を結び、およそ10年の歳月をかけて過疎地域からの脱却を果たし、現在の姿に復興することができました。

この間、「住んでよかった、いつまでも住んでいたい」という村づくりを目標に、自然の豊かさを活かし心の豊かさを求めまい進し、内外に誇れる村づくりに向けて、保育所・幼稚園の一元化、義務教育・社会教育の拠点づくり、社会福祉の充実、教育・スポーツ施設の設備などを進めてきました。

さらに、上水道の全戸給水の早期実現、糠沢農免・平成大橋の完成、あだたらドリームライン・安達太良大橋の完成をはじめ、原点である農業基盤の確立のための水田のほ場整備の完成、県営・団体かんがい排水事業の完成、豊かな自然・安心安全の食農基盤確立の「福舞里」の郷づくり等、社会資本の整備と農業基盤の整備に努めてきました。

定住環境と雇用の場の確保では、住宅団地の造成による人口増を図り、工業団地の造成とともに企業誘致を積極的に進め、雇用と所得向上対策の実現に向けての取り組みの結果、現在では、雇用数の伸び率、工業製造品出荷額の伸び率が県下一位、製造品付加価値率が県下二位と着実に本村振興の核として実績を積み上げていただきました。

また、住民福祉活動における数多い取り組み、医療保険・介護の充実、さらには、地域活動の中心となる地域振興協議会等の自主活動など、9,300村民の皆様のご協力とご尽力により村民一丸となった村づくりを実現し、平成８年から今日まで、家族構成人員が4.3人の「日本一大家族の村」の誇りを継続、生活の基礎である仲良く暮らせる明るい笑顔の家庭づくりのために、寄せられた情熱と努力に改めて感謝申し上げます。

今、新たな時代が幕を開け、この社会情勢の変化により、日本はかつて経験したことのない時代に突入しようとしています。本格的な地方分権時代・少子高齢化社会の到来、情報化・国際化に対応した多様な行政サービス水準の確保、極めて厳しい財政状況の中での効果的、効率的な行財政運営が求められるなどの背景から、平成16年から合併を議会、村民の皆さんと真剣に考え、歴史や文化、農業・商業や交通など昔から結びつきの深い本宮町と合併の協議を進め、平成19年１月１日に合併することになりここに閉村のときを迎えました。

万感胸にせまる想いを禁じえませんが、未来への新たな出発点にさせていただきます。今後は、新市基本計画の将来像である「水と緑と心が結びあう未来に輝くまちづくり」のため、それぞれの持つ自然環境や人づくり・こころづくり・福祉づくり、農業・商業・工業の活性化、歴史や文化などを共通の生活圏の土台として、地域の一体的な発展を願うものであります。

新しいまちづくりに向けて皆様の一層のご理解とご支援をお願いし、閉村のごあいさつといたします。

閉村によせて

白沢村議会議長
根本 善裕

白沢村は、昭和30年４月30日に旧和木沢村・旧白岩村が合併して誕生し、以来51年の歴史を刻んでまいりましたが、新たな時代に対応する地方自治確立に向けて、来年、平成19年１月１日本宮町と合併し、本宮市として生まれ変わるため、本村の歴史に幕を閉じることになり、感無量のものがあります。

顧みますれば、合併後は風習・習慣、そして歴史・文化など、意見の相違は多々ございましたが、諸先輩各位のご努力と幾多の困難を乗り越えて、今の素晴らしい白沢村があるものと理解いたしておるところです。

白沢村誕生後まもなく村の基幹産業であります農業に、曲がり角がおとずれ、以来、全村挙げて基盤整備事業計画を樹立、農業の近代化、機械化、省力化の取り組みを行いましたが、結果は、出稼ぎや若者の都市流出が進み、昭和55年には過疎地域の指定を受け、昭和60年には県内で一番住みにくい村との報道がされました。

その後、村民一丸となって道路や水道事業などの生活基盤の整備を進めると共に、定住環境の整備のため住宅団地造成と販売、工業団地の整備と企業誘致の取り組みを行い、人口の増加と雇用の場の確保・住民所得向上を図ったため、過疎地域からの脱却を見ることができました事は、諸先輩の方々はもちろん、歴代村長の方々、議員の皆さん、職員の皆さん、特にそれを今も受け継ぎ、ご理解とご協力をいただきました村民の方々の、ご尽力の賜物であると心より感謝しておるところであります。

しかし、近年の社会・経済情勢の変化は本村にとっても大きな影響を受け、特に地方自治体を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっておりますことは憂慮すべきことと思います。

国は、地方は地方の責任でと、地方の裁量は大きなものとなりました。

今後、住民のニーズは大きく高まることが予想され、これらに応えられる夢と、希望が持てる住民福祉の向上・地域の発展を図るため、この度の合併は、白沢村・本宮町の新設対等で協議を重ね、本村の農業・商業・工業をはじめ伝統文化など、新しい時代にふさわしい郷土白沢の更なる発展の願いを込めて、合意するに至った次第であります。

半世紀の間、親しんだ村がなくなることは、もちろん寂しさもあります。しかし、何よりも合併を新しいまちづくりの好機としてとらえ、新しい市の基本目標である「水と緑と心が結びあう未来に輝くまち」のために、新しい歴史を力強く作っていくことをお約束申し上げ、閉村のごあいさつといたします。

① 式辞を述べる岡部村長
② 閉村宣言
③ 記念式典のもよう
④ 村旗降納
⑤ 万歳三唱
⑥「ふるさと」斉唱
⑦ 来場した皆さん

白沢村」歴史に幕を閉じる

白沢村閉村記念式典は、十二月二十四日(日)にしらさわカルチャーセンターで開催され、来賓や感謝状受賞者など約四百人の皆さんが式に臨みました。

橋喜與美助役の開式の辞で式が始まり、出席者全員で「しらさわ賛歌～ふるさとゆめ色みらい色～」を斉唱しました。この後、岡部善宜村長が「今、新時代に対応する地方自治へ向けて新生「本宮市」が誕生するにあたり、白沢村の歴史に幕を閉じることとなりました。自然に恵まれたすばらしい環境、伝統や文化を受け継いで、今日まで村づくり、地域づくりに情熱を注いで取り組んでいただいた皆様方のご支援に心から感謝申し上げます」と式辞を述べました。

つづいて今年度各スポーツ分野で活躍した中学生十人と指導者五人に村長賞が授与され、さらに、議会議員や農業委員会委員、教育委員会委員の皆さんら四十五人に感謝状が贈られました。また、「白沢村五十一年のあゆみ」のVTRが上映されると来場した皆さんは、五十一年のあゆみを懐かしみ、なくなりゆく白沢村を惜しみながら見入っていました。

白沢中学校生徒会長の渡辺将仁くんと、副会長の茂木美里さんが「閉村宣言」を行い、村長、根本善裕議会議長が、壇上に掲揚された村旗を降納。最後に出席者全員で「ふるさと」を斉唱し、佐々木廣文議会副議長の万歳三唱のあと、前田長教育長の閉式の辞で式典は終了し、白沢村五十一年の歴史に幕を閉じました。

来場した皆さんの中には、感極まって涙ぐむ方の姿も見受けられ、五十一年の歴史の重さと白沢村がなくなりゆくさびしさを感じていました。

感謝状受賞者

議会議長
根本善裕(白岩)

議会副議長
佐々木廣文(糠沢)

議会議員
渡邊由紀雄(白岩)、佐藤孝昭(稲沢)、三瓶五一(松沢)、古宮忠重(糠沢)、國分民雄(糠沢)、渡辺喜一(和田)、佐藤正芳(稲沢)、安齋元一(和田)、渡邊嘉彦(長屋)、伊藤五郎(和田)、石塚勝臣(稲沢)、矢島義謙(糠沢)、荻野哲雄(長屋)、渡邊忠夫(和田)

農業委員会会長
渡邊善元(長屋)

渡邊善元さん

農業委員会委員
國分関夫(糠沢)、三瓶一朗(松沢)、渡邊　壽(稲沢)、橋本長典(白岩)、川名實(糠沢)、國分正雄(糠沢)、國分誓子(糠沢)、熊谷喜美子(長屋)、藤井剛(長屋)、吉田辰一(和田)、鍋島敏雄(松沢)、三瓶　一(和田)、三瓶巧一(白岩)、國分憲治(和田)

監査委員
菅野照紀(白岩)
(荻野哲雄)

教育委員会委員長
渡邊新市(和田)

渡邊新市さん

教育委員会委員
渡邊静子(長屋)、北山市郎(糠沢)、渡邊富士雄(白岩)

選挙管理委員会委員長
松本　務(稲沢)

選挙管理委員会委員
國分八重子(糠沢)、太田富久(和田)、石川啓子(白岩)

固定資産評価審査委員長
吉田武司(和田)

固定資産評価審査委員
熊谷幹雄(長屋)、國分盛夫(糠沢)

白沢村閉村記念式典

「ありがとう51年の

⑥

消防団長
齋藤文一(白岩)

東京しらさわ会長
國分元基(東京都)

齋藤文一さん

村長賞受賞者

(白沢中学校)

◆優秀選手賞

【陸上】
女子低学年
4×100メートルリレー
渡邊　育(2年)、渡邊由美(2年)、渡辺　梢(1年)、木村沙織(1年)

【卓球】
女子シングルス
榊原愛美

【水泳】
三瓶みずき

【テニス】
女子ダブルス
渡辺奈々美(2年)、菅野真里江(2年)
女子ダブルス
佐野菜津美(2年)、石川美穂(2年)

◆優秀指導者賞
(部活動顧問教諭)

【陸上】
関場俊宏、曽我江梨子

【卓球】
遠藤歌織、宮本美幸

【水泳】
武石昌之

代表の三瓶みずきさん

⑦

閉村記念特集

世代を越えて受け継がれる想い～家族の絆～

玄関や居間、天井に家族の声が響きわたる―。いつの時代も喜びや悲しみ、苦しみをともにわかち合い、助け合って生きてきた家族。そんな家族の営みが今に残る白沢村は、一世帯の構成人員が日本一多い「日本一大家族の村」です。

この村の家族は、今どんな暮らしの中で何を想い、感じて生きているのでしょうか。

特集「世代を越えて受け継がれる想い～家族の絆～」は、何世代もが同居する家族からのメッセージをお伝えします。

日本一大家族の村

白沢村は、平成８年に一世帯の構成人員が日本一多い、「日本一大家族の村」になりました。初めて日本一になった平成８年は、一世帯あたり4.9人。平成18年は4.3人で現在も記録を更新中です。

家族は社会の縮図。多くの家族が一つ屋根の下で喜怒哀楽をともに分かち合い、互いに尊重しながら人間関係を育み、そこから人を思いやる心や助け合いの精神を学びます。白沢村がなくなれば、日本一大家族の村ではなくなってしまいますが、お互いを尊重し合い、“何世代もの家族が一緒に住める村”として、心にとどめながらこの特集を読んでいただけたらと思います。

時の流れとこの家に代々住んでいた人たちの想いと息吹を感じるような大きな家。敷居をまたぎ一歩中に足を踏み入れると、家族と親戚の皆さんのにぎやかな声がこだまします。

築八十年以上になるこの家は、三代目の主渡辺芳衛さんが買い受け、白岩字宮ノ下の芦ヶ沼近くから運んできたもの。その当時の様子を語るのは、五代目の義徳さんと現在の主、六代目の芳一さん。「狭い道を馬車で運び、やっと梁をまわして建てた」と、代々語り継がれてきた話をせつせつと語ります。

この話に耳を傾けかたわらでほほ笑むのは、義徳さんの妻ミヤ子さんと、芳一さんの妻綾子さん。ミヤ子さんは、昭和二十九年に義徳さんと結婚して、昨年金婚式を迎えたばかり。

芳一さんの妻綾子さんは、和田（村内）から嫁ぎ、結婚して二十六年。お見合いですか、恋愛結婚ですかの問いに「おしかけ女房（笑）見合いでないから恋愛かな」と芳一さんと目を合わせて笑います。

渡辺さんのお宅は、芳一さんと綾子さん、長男の将志さんと嫁の理恵さん、孫の夕季乃ちゃんに、次男の望さん。そして、父義徳さんと母ミヤ子さんの四世代八人の大家族です。

渡辺家は代々大家族が暮らしてきた家で、「一番多いときで十七人が暮らしていた。朝は五升の飯を炊いてもなくなるほどで、タバコをつるしたその下で、お膳で飯を食っていた」と当時を振り返ります。

芳一さんの子どもやおい・めいが小さいときは、「四十人ぐらい集まったこともある。部屋がひとつ幼稚園になっていた」と懐かしみます。

また、稲作とタバコを営み、田んぼは一町（約百アール）、畑は二町（約二百アール）以上を耕作し、日雇いで数人の人を使っていたそうです。現在耕作しなくなった農地は、公園にしたり、植木を植えたりしているが、維持管理が大変だと語る芳一さん。芳一さんも今は会社員として働いています。「農地があっても作らないと収入が得られない。収入が得られなくても支払いはしなくてはならないか

ら、会社勤めをしている。百姓だけではやっていけないからね」と言う芳一さんに「将来、今の状態ではいかない。若い人（息子夫婦）は若い人でやっていかなくてはならないから」と綾子さんも口をそろえます。

芳一さんの息子で七代目となる長男将志さんは、二十四歳。一昨年一月に結婚して、今は一児のパパ。奥さんの理恵さんは、縁あって群馬県からお嫁にきたという若い夫婦です。娘の夕季乃ちゃんは二歳で、白沢保育所に通っています。

農家に嫁ぎ、大家族の暮らしはどうですかと理恵さんに尋ねたところ、「実家も父母と祖父母、兄弟がいる大家族で、米と野菜を作っている農家です」と予想外の返事が返ってきてびっくり。「あまり実家と変わらない。棒立て（稲刈りの）がないくらいで…」理恵さんの実家は大規模な農家で、全て機械化され、手伝うことはなかったそうです。

「田んぼだけは、手伝えるときに二人で手伝っています。それ以外はなかなかできないので、これ以上増やさないでほしい（笑）」と語る将志さんは、現在村内の会社に勤務しています。

早番が毎朝五時半から午後二時十五分まで、遅番が午後二時十五分から午後十一時までの二交代。遅番のときは毎日残業になることが多く、家族とはすれ違いの生活になり、子どもの顔を見ることができないそうです。そんな若夫婦に家族とは何ですかと聞いたところ「支えであり、力の源、原動力です。いないとさびしいし―」と家族の大切さを語ってくれました。

家族が多くて困ることはの問いに将志さんは、「家族の意見がバラバラで違うことがある。家族が少なくても意見の違いはあるけれど…。自分ではこうしたいと言っても結局みんながいいと言わなければだめ。最終的に決めるのはお父さん。何も言えないです」と正直な気持ちを打ち明けてくれました。

一方、義徳さんは「うれしいことは何代も一緒につながっていられることだ」と語り、そして、渡辺家の宝物は何ですかとうかがうと「お母さん（綾子さん）が宝物。だから円満にやっていけるんだ」とミヤ子さん。「姑同士の会話で嫁の話がでる。私は何も言うことがないっていうんだ」と心から感謝しています。

この言葉に綾子さんは「お互いがそう思っているんだと思いますよ。お互いに感謝の心を持っているからいいんじゃないかな」また、「野菜を作るのはじいちゃんばあちゃん、私はとってごちそうになるだけ」と返します。

こんなやりとりに「嫁姑関係、うまくいってていいですね」と、芳一さんにうかがうと「一番大変なのは俺なんだけど（笑）」と冗談交じりの余裕の笑み。皆さんの会話の一つ一つから、口先だけではない想いが感じられます。

最後に家族への一言をお願いしたところ、「お父さん（芳一さん）を応援します」と義徳さん。ミヤ子さんは「悪いことは悪いことだから苦言は言う。そんなことはあんまりないけどない」と一言。

綾子さんは「家族みんなで仲良くやりましょう。若い人とも仲良くない」この家の主人、芳一さんは「みんなが欠けないように健康でいてほしい」と笑みを浮かべます。

また、息子さん夫婦へのメッセージをお願いすると「まだ若いし、今の時代と俺らの時代と違うので、多少の考え方のズレもあると思うが、言いたいことはざっくばらんに話してほしい。それに対して黙って見てるか、それではだめだと教えてやり、援助もしていかなければならないと思う。互いに尊重し合ってやっていければいい」と、芳一さんは、この家の主として、そして父親としての想いを語ってくれました。

「あっ、ブドウ狩りで会ったことある人」と、人なつっこい顔をのぞかせ玄関で出迎えてくれたのは、このお宅の次女美南（みなみ）ちゃん。

太陽の光がさんさんと家族が集まる居間に降り注ぐ、晴天の土曜日。日の光よりも明るい子どもたちの声。そして家族の笑い声と笑顔が家中に響きわたります。

今回、登場いただくもうひと家族は、菅野（すげの）さん一家八人の大家族です。

主人の三郎さんは、本宮町出身で、縁あって菅野家に婿養子に入られた、スポーツ万能なお父さん。奥さんの久美子さんは、とっても明るく、まるでこの日の太陽のように家族を照らすお母さん。

長男の翔太くんは、ソフトボールに夢中の和田小学校六年生。長女の理沙子ちゃんは、心優しく、面倒見のいいお姉さんで、和田小学校の四年生。末っ子の美南ちゃんは、ちょっとおませでダンスが好きな和田幼稚園の年長さん。

そして、父の敏之さんは、孫思いの優しいおじいちゃん。母の花子さんと祖母のキクノさんは、いつも家族を心配し、孫とひ孫へ惜しみない愛情を注いで見守っています。

「今年は、翔太中心に家族がまわっていた」と話すのは、久美子さん。翔太くんは今年の秋まで、和田ソフトボールスポーツ少年団でピッチャーとして活躍し、さまざまな大会で優勝を収めています。

小学校三年生からソフトボールを始め、最初はグローブの持ち方も知らなかったのが、そのうち学校から帰ってくると野球好きの敏之さんに「じいちゃん、キャッチボールやっぺ」と言うようになり、以前は家の下で二人でよくキャッチボールをしたそうです。

「前は一緒にやっていたけど、年を取ってくるとできなくなる。翔太は、夕方になるまでやっぺって言うけど、夕方になると見づらくなるしない」と、敏之さん。それでも、二人で練習していた当時の光景を思い出し、うれしそうに語ります。家族のひいき目ではなく、一人でも黙々と練習をしていたそうです。そのかいあって、今年は八月頃から成績を残し、家族の皆さんも県内各地を応援に飛び回ったそうです。「忙しかったけれども、楽しかった」と花子さん。両親のお二人にうかがうと、翔太くんは、負けず嫌いで、中学校では野球をしたいと言っているそうです。

長女の理沙子ちゃんもお父さんの血を受け継いだスポーツ好きの女の子。学校の授業も体育が好きで、和田バレーボールスポーツ少年団で活躍しています。先週の十二月九日(土)と十日(日)に行われた二本松市と南達三町村のバレーボールスポーツ少年団が参加した安達地方交流大会では、アタッカーとセッターで活躍し、Cクラスで見事優勝しました。

末っ子の次女美南ちゃんは、ダンスが好きで絵がとっても上手。大手菓子会社の児童を対象にしたダンスコンテストへ向けて、ただ今練習中です。キクノさんは「ばあちゃん、ダンス見せっかんない」と言っては踊ってくれると目を細めます。

菅野家の長男翔太くんは、何十年ぶりに授かった男の子。久美子さんは、「私たち以上に両親（敏之さんと花子さん）はうれしかったんじゃないかな」と語ります。

また、美南ちゃんの良きお姉さんで、面倒見がいい理沙子ちゃんは、「ただいまって帰ると、いつもキクノばあちゃんと

花子ばあちゃんが、お帰りって言ってくれる。お帰りって聞かないと安心しないの。誰もいないときは手紙がある。どこに行きますって書いてあるの」と無邪気な顔。

そんな孫たちを見守る花子さんは、「私たちがいないと、じいちゃんばあちゃんてさわぐんだ。だから書き置きをして出かけるの。時間には帰らなくてはならないと思って。心配だから、お兄ちゃんがいても必ず玄関だけはカギをかけておくんだよって言っている。お父さんやお母さんがいないとき、何かあると心配だからない」と孫を案じます。

また、「お母さんの帰りが遅いので、孫たち三人は夕飯を少し食べてお母さんが帰ってくるまで待っている。車がくるたびにお母さん来ないなってね」と、花子さん。久美子さんも「私が帰ると茶わんを取り出して一緒に食べるんですよ」と子どもたちに視線を向けます。

父親の三郎さんは、「今の学校関係をみると、心配なことがたくさんある。まずは友達関係。その原点は家にあるんだろうけどね。みんな個性も違うし、性格も違うから」と語ります。

取材の最後にお互い家族の皆さんへのメッセージをお願いしたところ、「正直言って今は、子どもを育てるのに精一杯なので、両親には負担をかけていると思います。でも、それを支えるのが家族だろうなって思うので、そういった意味で温かく見守ってほしいですね」と久美子さん。敏之さんと花子さんには、言葉では伝えきれないほど感謝されています。

また、「子どもを一人前になるまで、しっかりと育ててほしい。大変だと思うけどない。人に迷惑をかけないで」と父と母の胸のうちを語る敏之さんと花子さん。

三郎さんからは、「子どもたちに優しいお母さんでずっといてほしい」と妻久美子さんへ、敏之さんと花子さん、キクノさんには、「健康で長生きしてください」と、普段口にできない想いを伝えます。

三人の子どもたちには、「人に優しい子であってほしい。また、自分でこうしたいという理想をもって、これから小学校、中学校、高校へと進んでいってもらいたい」そして、応援できることは精一杯してやりたいという姿に、子を想う親の心を感じます。

家族が集うこの場所に、さんさんと光輝く昼間の日ざしは、朝と同じように降り注ぎ、まるで、菅野家の家族の皆さんのようにいつまでも明るく、温かく照らしていました。

あとがき

明るい笑顔と笑い声。登場いただいた渡辺さんと菅野さんのお宅は、にぎやかな八人の大家族です。

今回の取材を快く引き受けていただき、家族のこと家庭内のことを率直に話してくださいました。普通なら他人に話したくないことを、ましてや、多くの村民の皆さんが目にするこの広報しらさわで…。

「ほかの家族にも言えることだから」と言って、いろんなことをお話いただいた渡辺芳一さんと家族の皆さん。

大家族の企画がなくなることを惜しみ、「やらなくなるのでは、今回、選んでもらってうれしい」と言ってくださった、菅野三郎さんと敏之さん。

ご協力いただいた二つの家族の皆さんに、出てよかったと思っていただけるように、そして、家族の記念になるように、また、この日本一すてきな大家族のいる村を知ってもらえたらいいなと、精一杯書かせてもらいました。至らない文章や表現は、多々あったかと思いますが、そこはお許しいただきたいと思います。

大家族バンザイ。白沢村がなくなってもいついつまでも残っていてほしい、郷土の文化と宝です。

わの宝

しらさ

わの宝

しらさ

12月村議会定例会

村営住宅条例の改正、各会計補正予算など議案17件を可決

平成18年第４回白沢村議会定例会は、12月５日(火)から８日(金)までの４日間の会期で開かれました。

今回の議会では、村営住宅条例の一部を改正する条例制定や在宅介護支援センター条例を廃止する条例の制定、各会計補正予算など議案17件が審議されました。その結果、全て原案どおり可決されました。その主な内容を紹介します。

なお、今回の議会定例会は、白沢村最後の定例会となりました。

条例制定

●馬場村営住宅の用途を廃止するための条例改正

白沢村営住宅条例の一部を改正する条例の制定

白岩字馬場の馬場村営住宅は、老朽化により入居するのは危険な状態なので、村営住宅としての用途を廃止するため、条例の一部を廃止しました。

●地域包括支援センター設置による在宅介護支援センターの廃止

白沢村在宅介護支援センター条例を廃止する条例の制定

平成十八年四月の介護保険法の改正に伴い、介護相談や高齢者の総合窓口など在宅介護支援センターの機能を果たす「地域包括支援センター」を設置したため、条例を廃止しました。

補正予算

今回の議会で可決された平成十八年度の一般会計と特別会計の補正予算の主なものは次のとおりです。

一般会計

歳出の主な内容は、老人保健特別会計への繰出金などを補正しました。

歳入歳出とも六千百三十九万六千円を追加し、四十二億七千六十五万六千円としました。主なものは、次のとおりです。

▼老人保健特別会計繰出金

……６９１３２千円

老人保健医療費の伸びによる一般会計からの繰出金。

▼白沢中学校施設維持管理に要する経費

……４２４３千円

白沢中学校受水槽揚水ポンプ修繕、受水槽外部コーティングや、高架水槽外部コーティング等修繕費、校門扉修繕費など。

特別会計

【国民健康保険】

■事業勘定

歳入歳出とも二千六百五万九千円を追加し、七億六千八百二十万二千円としました。歳出の主なものは、次のとおりです。

▼一般被保険者療養給付事務事業……１２８８１千円

医療費の伸びによる療養給付費の増額。

■直営診療施設勘定

（白岩診療所）

予算の総額は変わらず、歳出科目ごとの予算額を変更しました。主な内容は、暖房用ボイラー交換工事費の増額、予備費の減額です。

【老人保健】

歳入歳出とも九千八百二十三万二千円を追加し、九億二千百十八万円としました。歳出の内容は、次のとおりです。

▼老人保健医療給付に要する経費……９８２３２千円

医療費の伸びによる医療給付費の増額。

【介護保険】

歳入歳出とも一千二百九十一万二千円を追加し、四億四千二百六十九万円としました。歳出の主なものは、次のとおりです。

▼介護サービス等給付事業に要する経費

……１２１８万円

特別養護老人ホーム入所者増による保険給付費の増額。

【水道事業】

支出の主なものは、収益的支出に五十八万二千円を追加しました。主な内容は、水道管修繕費の増額です。

アフトン町との友好都市に幕

「白沢村・アフトン町」友好都市フェアウェルレセプションを開催

白沢村とアメリカ合衆国ワイオミング州アフトン町との友好都市フェアウェルレセプションは、十一月二十四日(金)に公民館で開催されました。

このレセプションは来年一月の本宮町との合併を控え、アフトン町との友好都市解消のため開かれたものです。この日、アフトン町から友好都市締結の橋渡しをしたリッチンズ夫妻が訪れ、町長からのメッセージを代読して、交流のあった皆さんと懇親会を行いました。

アフトン町と白沢村は、平成九年十月に友好都市を締結して交流を深めてきました。この中で、両町村の皆さんが互いにホームステイをしたり、村内三つの小学校の児童がアフトン小学校の児童とビデオや絵の交換をしたりして、両国の文化を学び、言葉の違いを越えて交流を図ってきました。

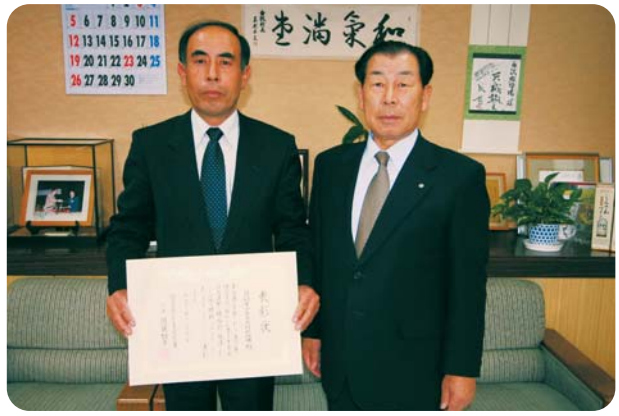
◀メッセージを読み上げるリッチンズ夫妻

▼参加した皆さんとの記念撮影

白沢中学校が、県中学生人権作文コンテストで受賞

平成18年度中学生人権作文コンテスト福島県大会で白沢中学校３年の遠藤由加利さんが県奨励賞に、同３年の鹿野なるみさんが協議会奨励賞を、さらに、同校が感謝状を受賞しました。12月15日(金)に福島地方法務局手賀務人権擁護課長が同校を訪れ、伝達式を行いました。遠藤さんの作品は、「中国と私達を結んだ『さとし』」、鹿野さんは、「心のバリアフリー」という作品で今回、見事受賞を果たしました。

白沢村青少年育成村民会議が県民会議会長表彰を受賞



11月22日(水)に県文化センターで行われた、第29回福島県青少年健全育成推進大会の青少年育成市町村民会議の部で、白沢村青少年育成村民会議（会長佐藤喜英さん）が県民会議会長表彰を受賞しました。この受賞は、各大字ごとに組織されている地域青少年育成会の活動をはじめ、毎年開催されている白沢村青少年健全育成推進大会など、活発で模範となる活動を行っていることが評価され、今回の受賞となりました。

防災行政無線の放送時間が一部変更になります

火災や台風などの災害時の放送をはじめ、村からのお知らせなどを放送している、防災行政無線の放送時間が一部変更になります。

- **朝の定時放送**
  午前６時30分から
  午前６時45分に変更
- **昼の時報**
  午前11時30分から
  正午に変更

編集後記

除夜の鐘の音とともに白沢村が五十一年の歴史に幕を閉じ、新生「本宮市」が誕生しようとしています。元日からは長年慣れ親しんできた「白沢村」の家族から、本宮町と「本宮市」という新しい家族を作ります。今まで以上に〝大家族〟の大所帯となり、意見の相違や考え方の違い、生まれ育った生活環境の違いからぶつかり合うこともあるかと思います。でも、本宮市という一つ屋根の下の新しい家族。お互いを尊重し、歩み寄りながら円満な家庭（市）を築きあげていきたいと思いますので、村民の皆さんよろしくお願いいたします。

最後にこれまで取材にご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げ、白沢村の皆さんのご健康とご多幸をお祈りし、最後の編集後記といたします。ありがとうございました。　純

いつまでも忘れない みんなの笑顔

編集発行　白沢村役場　総務課総務係

発行日● 平成18年12月31日
発　行● 〒969-1292（個別番号）
福島県安達郡白沢村糠沢字小田部1
☎0243（44）2111
FAX 0243（44）2447
ホームページ（URL）　http://www.vill.shirasawa.fukushima.jp/
電子メール（E-MAIL）　main@vill.shirasawa.fukushima.jp